

特定テーマ1に対する企画提案

# 庭園都市 岡山市の魅力伝える場へ - 緑の屋根ときらめく水辺が迎える新しい駅前広場



概算工事費：20～30億円程度

特定テーマ1に対する企画提案

01 岡山市のポテンシャルと現状から導く駅前整備方針

豊かな自然と文化が集まる庭園都市、岡山市

岡山市は、東西南北を山々や丘陵地、河川に囲まれた地形にくわえ、岡山城や後樂園など日本有数の歴史的遺産を誇る日本随一の都市です。豊かな自然と歴史、人が共存する庭園都市 岡山市のポテンシャルを最大限にいかした岡山駅前空間を提案します。



駅周辺に広がる魅力的な名所

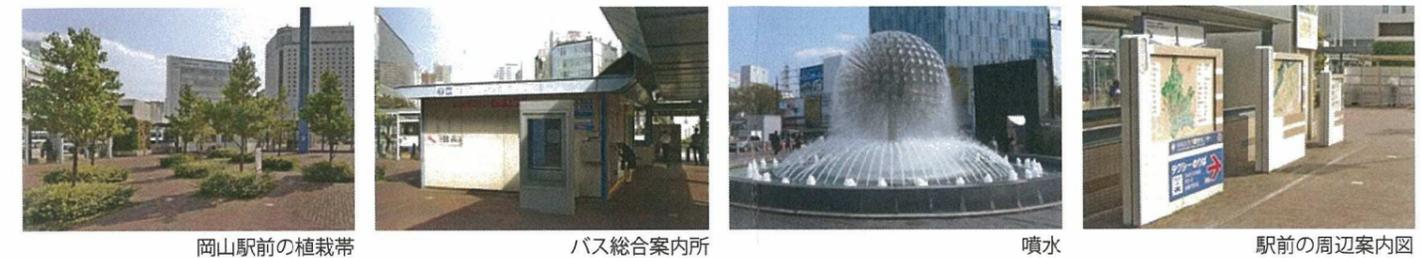
山陽新幹線が乗り入れる岡山駅は、他県からの来訪者の玄関口であると同時に、岡山の各観光地へのターミナル駅として活躍しています。また岡山駅の周辺には、岡山城、後樂園、旭川、西川緑道公園など、魅力的な歴史と自然の遺産が数多く存在しています。

新しい岡山駅前広場は、岡山を代表する玄関口としてふさわしい佇まいを備え、駅周辺の観光地へ桃太郎大通りによって最短アクセスできることが視認されるように整備します。岡山市民、県外からの来訪者双方にとって魅力的でシンボル性のある岡山駅前広場をめざします。



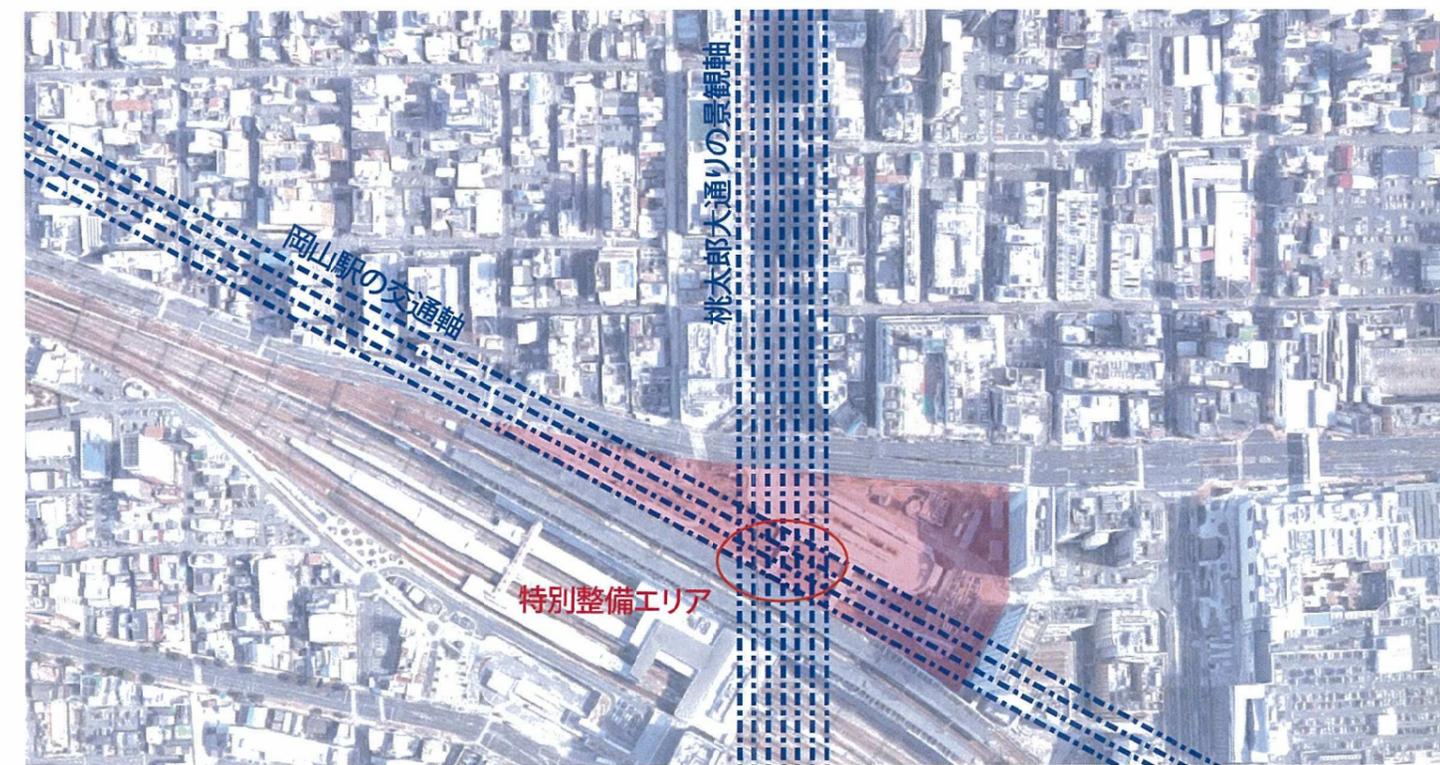
現状から分析したデザイン課題

現状の駅前広場は、周辺に魅力的な名所があるにも関わらず、広場にある案内板や植栽が視界を妨げ、市街地へのアクセスを分断しています。同時に、それらの設置物が散在し広場の有効面積を狭めているため、歩行者の動線を確保しながらイベントを行うことができません。まず駅前広場として必要な要素を抽出し最適化し、市民や来訪者にとってわかり易い駅前広場とします。岡山駅が本来持ち合わせるポテンシャルをいかし、将来のさらなる発展を見据えます。



02 周辺環境を取り込むデザイン手法

駅前整備範囲の中でも注力すべきエリアは、後樂園、岡山城へと続く桃太郎大通りの景観軸と岡山駅の交通軸が交差する場所です。岡山駅を背にして広がる駅前商店街や桃太郎大通り、市役所筋への視認性を向上するために、岡山駅の交通軸と桃太郎大通りの景観軸が交差するエリアを駅前広場の特別整備エリアとして位置づけます。その軸を基準線として用い、水と緑が豊かな庭園都市である岡山市らしい岡山駅前デザインを創案します。

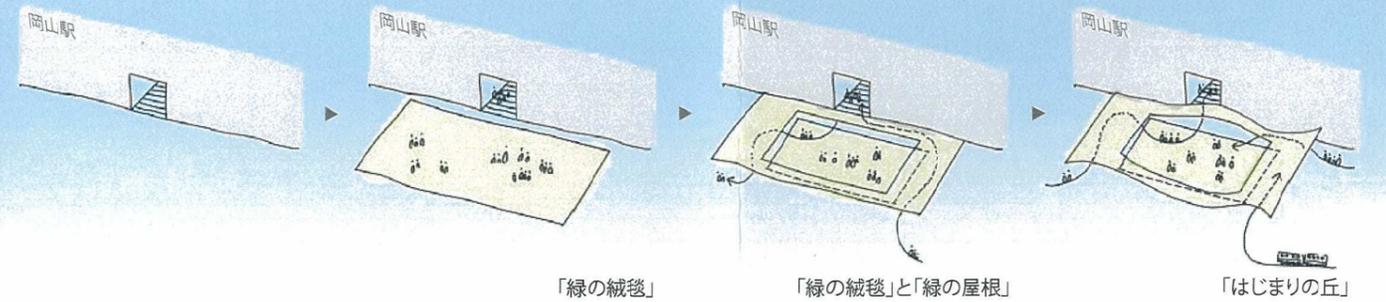


特定テーマ1に対する企画提案

03 庭園都市をコンセプトにした屋根デザイン

緑の絨毯から緑の屋根へ

来訪者を迎え入れる広場として、芝生の「緑の絨毯」を整備します。  
 屋根のある歩行者動線を確保するため、緑の絨毯の一部が「緑の屋根」として浮き上がり、雨や直射日光を遮ります。  
 屋根はその場所の機能に応じて高さを変えます。  
 この緑の絨毯と緑の屋根を、岡山市がはじまる玄関口として「はじまりの丘」と呼びます。



新たなシンボル、波打つ緑の屋根

駅前広場の新たなシンボルとして「庭園都市 岡山」を象徴する「緑の屋根」を設けます。  
 屋根の形状や高さは、眺望や市街地への見通し、バスターミナルでの雨の吹き込み防止を考慮し、機能性と美観性を両立させます。緑の屋根は緩やかな曲線を描き、そのラインは桃太郎大通りの軸に垂直に波打ちます。  
 2階の東西連絡通路からも1階のはじまりの丘からも岡山駅の特徴である開放的な眺望をのぞみ、桃太郎大通り方面に自然に視界が広がります。反対に、桃太郎大通りから駅を眺めると、岡山市の象徴となる緩やかな緑の丘状の屋根が駅を包みます。  
 緑の屋根は、岡山駅のホームに降り立つ人や、駅前広場を歩く人、駅前の高層ビルにいる人など、岡山駅を利用するすべての人にうったえる存在となります。



緑の屋根は、鉄骨を主構造とし、岡山県産の木材を緑化屋根の下地とすることで、自然環境との共生のシンボルとする

景観軸と交通軸のグリッドから成立する屋根構造イメージ



駅前広場を形成する3つのエリア

駅前帯の現状の問題点を解決しつつ、岡山市のシンボルとなる新たな駅前広場を整備するために、「岡山市都市ビジョン」が掲げる「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」をデザインコンセプトに据えます。  
 駅前広場を岡山市らしい自然が想起される3つのエリア、「はじまりの丘」、「あつまる水辺」、「ながめる森」の3つのエリアに分けます。  
 岡山駅を訪れる人が、庭園都市の息吹を感じながら、利用しやすい駅前広場を目指します。



「庭園都市」を目指す新たな駅前広場